

銅 概 況

大阪市中央区玉造2丁目28番10号
加藤金属興業株式会社

◎ 2021年1月の国内電気銅建値は下記の通りです。

1月	4日	～	840円/Kg
1月	6日	～	870円/Kg
1月	8日	～	890円/Kg
1月	14日	～	870円/kg

2021年1月度は平均で870.00円/kgとなり、前月比22.20円/kgの値上がりとなりました。

海外銅価の動き

1月のLME銅相場	1/1～1/28	(安値ドル7,778.50～8,146.00 高値ドル)
1月のNYC銅相場	1/1～1/28	(安値セント355.30～369.85 高値セント)

1月度のLME現物は、1/4 \$7,918.50でスタート。

1/6には2013年2月以来、約8年ぶりに\$8,000をオーバーする動きとなった。1年前の1月、\$6,000前半でスタートしたLME銅相場現物価格は、一時的に\$4,000台に落ちることはあったものの、基本線としては\$5,000台にて推移した。一方、気候条件などによるワクチンその他の対処療法での期待値が薄れ、コロナ禍の先行きが一層見えなくなる中で7月には\$6,000台へ上昇し、その後は\$6,000台での推移となった。更に11月半ばには\$7,000を超え、先物では12月に、現物では今月1月にはついに\$8,000をオーバーする形となった。1月は月末まで\$8,000を挟んでの動きに終始し、比較的高いポジションでの様子見の銅相場となった。要素としては、コロナ禍による影響は大きいものの、銅の最大消費国中国の早期の経済の立ち直り、米国への政権交代による期待感などが考えられる。在庫については5月に最大27万t以上あったが、それをピークに1月は105,800tでスタートし、月末26日には8万tを切り79,275tまで減少した。

銅需給バランス…P社情報 2020年5月 資料より (単位/千トン)

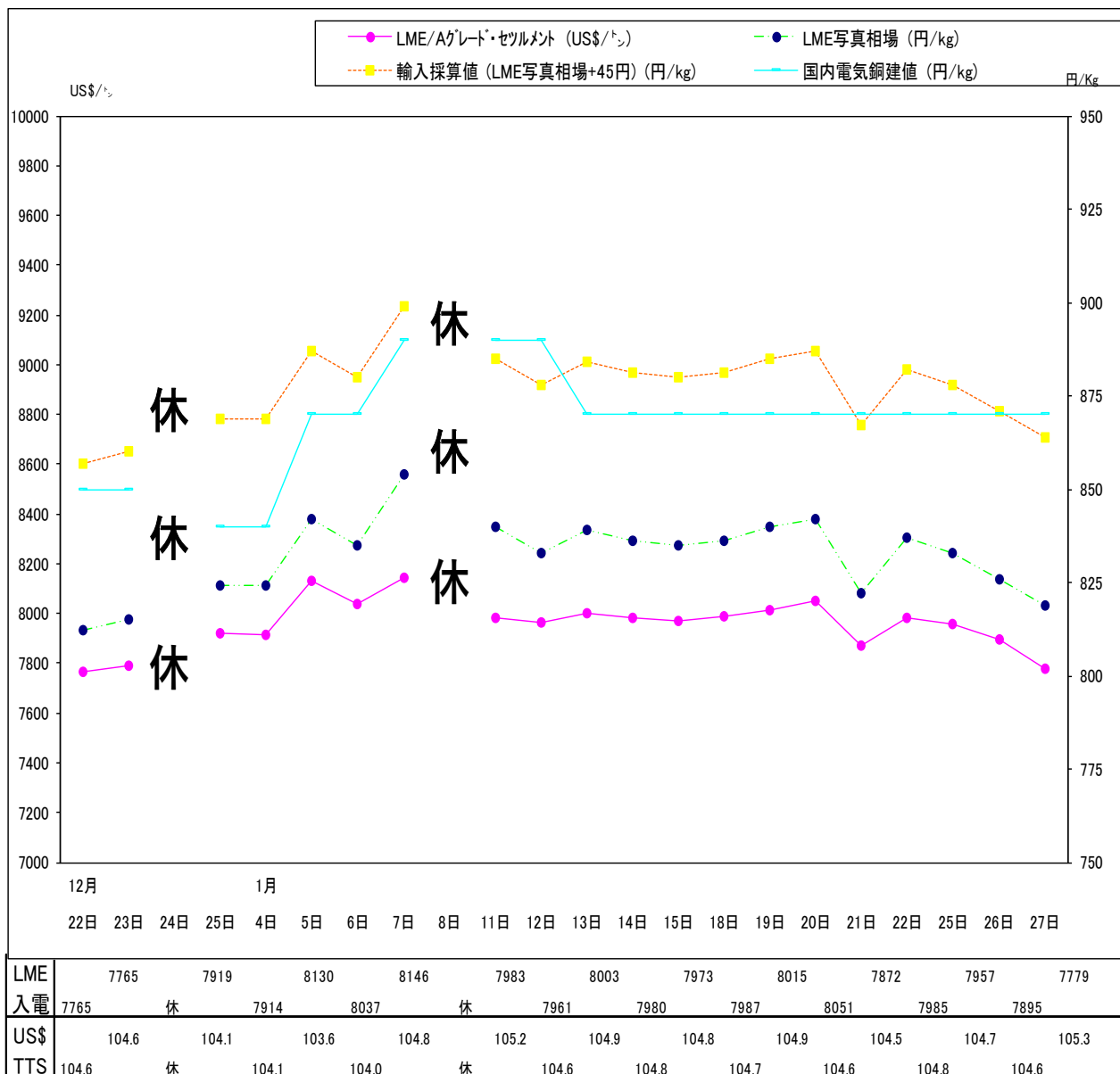
	2019年 実績	2020年 実績	前年比	2021年 予想	前年比	2022年 予想	前年比
全世界地金生産	23,531	22,893	-2.7%	23,668	+2.7%	24,545	+3.7%
全世界地金消費	23,621	22,772	-3.6%	23,518	+2.3%	24,456	+4.0%
全世界需給バランス	-90	+121		+150		+89	

先行き短期見通

国内銅価

1月の国内建値は1月4日840円でスタート。6日8年ぶりの8,000ドル超えの勢いを受けて870円、8日890円と900円手前まで上昇も、その後一段落し14日870円で落ち着いた。平均も同値870円。1/2付LME\$7,778.50、同為替(TTS)1USD=105.31円で日本円換算計算値819円/kgに。2021年2月度の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、860円/kgの予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 2021年1月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 1月 4日 ~ 334 円/kg
- 1月 7日 ~ 346 円/kg
- 1月 13日 ~ 340 円/kg
- 1月 18日 ~ 328 円/kg
- 1月 21日 ~ 331 円/kg
- 1月 26日 ~ 328 円/kg

平均334.20円/kg

2021年1月は上記の通りで前月比 8.60 円 / kg の 値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	1月	271.10 円/kg	(前月比-	3.90 円/kg)
電気錫(相対)	1月	3,610.00 円/kg	(前月比+	200.00 円/kg)
ニッケル(溶解用)	1月市中価格	2,000.00 円/kg	~ 2,050.00 円/kg	
銀	12月平均	83,920.00 円/kg	(前月比+	1,670.00 円/kg)
	1月29日	89,350.00 円/kg		
金	12月平均	6,214.05 円/g	(前月比-	87.48 円/g)
	1月29日	6,221.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

2020年12月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		11月度実績	12月度速報	前月比	前年12月度実績	前年同月比
銅	板	1,043	967	-7.3%	1,662	-41.8%
	条	22,148	20,908	-5.6%	19,338	8.1%
	管	7,938	7,199	-9.3%	8,795	-18.1%
	棒	1,610	1,780	10.6%	1,902	-6.4%
	線	286	282	-1.4%	250	12.8%
黄銅	板	388	413	6.4%	629	-34.3%
	条	7,957	7,657	-3.8%	7,364	4.0%
	管	346	359	3.8%	458	-21.6%
	棒	13,712	13,397	-2.3%	14,200	-5.7%
	線	1,837	1,944	5.8%	2,133	-8.9%
青銅	板	2,499	2,486	-0.5%	2,050	21.3%
	条					
	棒	238	231	-2.9%	276	-16.3%
	線					
洋白・その他	板	480	464	-3.3%	426	8.9%
	条					
	棒	319	333	4.4%	329	1.2%
	線					
合計	60,801	58,420	-3.9%	59,812	-2.3%	

12月の伸銅品生産速報は、58,420トンで前月比マイナス2,381トン、前年同月比マイナス2.3%となり、前年同月比が25ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の9月分実績及び10月分推定によれば、9月分実績はコロナの影響が依然続き7部門中、通信と電気機械を除く5部門が前年同月を割り込み、総計5万1千969tで前年同月比14.2%減と12ヶ月連続で前年を下回った。コロナ禍により、新年度(4月)以降いまだに二桁減が続き、険しい需要環境には変化がない。

一方、10月分推定は、自動車が8千200tで7ヶ月ぶりに増加に転じたが、ほかの6部門が前年を割り込み、総計は5万6千tで同7.8%減と13ヶ月連続で減少する見通し。ただ、10月になって減少幅は圧縮し、一桁減にとどまる見通し。

9月分の部門別出荷は、通信と電気機械の2部門がプラスとなった。通信はGIGAスクール向けLANケーブルと携帯電話基地局用高周波同軸が5G向けに動き前年同月比4.4%増加した。電気機械は自動車の電装用途に動き24ヶ月ぶりの増加となった。マイナスは5部門。電力は洋上風力発電向けは動いているが、CVの張替需要や保守メンテナンスは伸び悩み同6.5%減少した。自動車は日系顧客の需要が一部戻ってきたが、同4.1%減少し6ヶ月連続での下降。建設電販は、市販ルートと電設ルート共に伸び悩み同22.3%の減少。大型案件は控えるものの人手不足で作業効率の低下で8ヶ月連続の下降となった。その他内需もコロナ禍等による景気低迷により民間企業の設備投資の鈍化で同17.9%減。輸出もコロナの影響で同28.8%減で9ヶ月連続。

2020年9月分(実績)・2020年10月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	9月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	10月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	9月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通信	854	17.1	4.4	1,000	(17.1)	▼2.0	1,372	10.3	▼1.6
電力	(1,316) 3,772	(▼18.2) 8.7	(▼44.8) ▼6.5	(1,300) 4,100	(▼1.2) 8.7	(▼31.5) ▼6.1	(1,095) 4,386	(▼0.9) 12.8	(▼33.4) ▼10.0
電気機械	(260) 11,223	(6.1) 29.0	(27.5) 0.1	11,500	2.5	▼1.5	(267) 13,101	(12.2) 28.5	(23.6) ▼13.3
自動車	(198) 7,794	(17.2) 44.2	(20.7) ▼4.1	8,200	5.2	7.0	(707) 37,547	(18.4) 44.0	(26.5) ▼0.1
建設・電販	(37) 23,427	(27.6) 3.8	(23.3) ▼22.3	26,500	13.1	▼12.9	(46) 26,943	(70.4) 4.8	(27.8) ▼21.4
その他内需	(50) 3,624	(150.0) 30.7	(▼9.1) ▼17.9	(600) 3,800	(10.1) 4.9	(17.4) ▼11.3	(44) 6,132	(37.5) 25.7	(▼24.1) ▼17.0
内需計	(1,861) 50,694	(▼10.2) 16.2	(▼34.4) ▼13.7	(1,900) 55,100	(2.1) 8.7	(▼21.1) ▼7.3	(2,159) 89,482	(8.0) 24.3	(▼14.1) ▼11.1
輸出	(151) 1,275	(▼83.6) 80.9	(15000.0) ▼28.8	(1,400) 900	(827.2) ▼29.4	(2053.8) ▼30.7	(102) 5,270	(▼78.8) 56.5	(2450.0) ▼13.4
合計	(2,012) 51,969	(▼32.7) 17.2	(▼29.1) ▼14.2	(3,300) 56,000	(64.0) 7.8	(33.4) ▼7.8	(2,260) 94,751	(▼8.9) 25.7	(▼10.2) ▼11.2
心線販売	(436) 22,452	(35.4) 35.5	(▼13.0) ▼24.2	(500) 26,100	(14.7) 16.2	(▼24.4) ▼18.6	(98) 15,701	(36.1) 38.2	(▼19.0) ▼20.5

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2020年9月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比(%)	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,719	17.4	▼4.2	2,546	24.0	▼19.8	
巻線	10,330	36.7	▼2.4	9,787	35.8	▼12.9	
機器用電線	2,858	13.9	▼11.4	8,580	17.1	▼8.3	
通信用電線・ケーブル	1,286	9.3	▼7.0	3,064	15.8	▼2.3	
電力用電線・ケーブル	18,279	7.0	▼21.5	18,681	9.9	▼25.2	
被覆線	9,361	8.9	▼22.0	13,373	10.2	▼18.3	
輸送用電線	6,136	44.4	▼1.0	38,720	43.4	0.7	
銅電線計	51,969	17.2	▼14.2	94,751	25.7	▼11.2	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル 電力用電線・ケーブル、被覆線 計	65 3,010 3,078	3.2 24.0 23.4	▼23.5 ▼16.7 ▼16.9	247 3,449 3,719	14.4 25.0 24.3	▼15.1 ▼15.2 ▼15.3
アルミ電線計	2,012	▼32.7	▼29.1	2,260	▼8.9	▼10.2	
光製品	3,967,116	14.1	32.0	27,841	19.8	1.5	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	6,633	15.8	22.6	

(注)2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注)3. 光製品の数量はkmc

(注)4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場、第1週、本年の初商いは、\$ 2,030と年末から\$ 49.5上伸してのスタートとなる。目先の感染拡大は深刻化しているも、ワクチンや大規模経済支援策への期待を背景に今年はメタル需要が拡大とみられる。連邦議会議事堂内にトランプ大統領の支持者らによる騒動が発生したが、次期大統領の正式認定と民主党の上院決選投票勝利で経済支援策が期待され、ベースメタルは堅調。第2週、米長期金利の低下や国債入札の好調からドルが後退しアルミは堅調推移。しかし、イタリアのレンツィ元首相が連立与党からの離脱を示したことで政局不透明感が意識され、ユーロ売りが進行しアルミは反落した。中国での在庫積み上げを背景にSHFEが下げ足を早めていることから上値が重く推移。今後の在庫の積み上げが注目される。第3週、前半は堅調な中国第4四半期GDPに支えられるも、中国の一部都市での感染増加が見られ、春節連休を前に感染拡大が懸念材料となりベースメタルは軟調。LME在庫も約2万トンの純増があり、その後、約4万トンの純減が見られるなど上げ下げ狭いレンジでの推移となる。ECB理事会でユーロ高牽制発言があり、良好な米経済指標発表が相次ぎユーロ相場の重しとなり上値は限定的。第4週、欧州主要国のPMIの悪化や中国春節を前に感染拡大の警戒感から上値は重く推移。米1月製造業PMIが2007年5月来の高水準となり、加えLME在庫に約4万トンの純減が見られ、続いて約8.5万トンの純減で支援材料になるも米大手企業の決算発表によって、NYダウ株が急下落しリスク回避のドル買いにつられアルミは急下落した。引き続き決算発表があり、当面は\$ 2,000前後での推移を予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2020年 12～1月積 2,149.00～2,139.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2020年 12～1月積 238.70～237.50 円/kg
- ・NSP 2020年 11月 252.20 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2021年 1月～3月 250.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'20年11月	'20年12月	'19年12月
月生産	*2,297.0	2,390.0	2,395.0
平均日産	*76.6	77.1	77.3

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

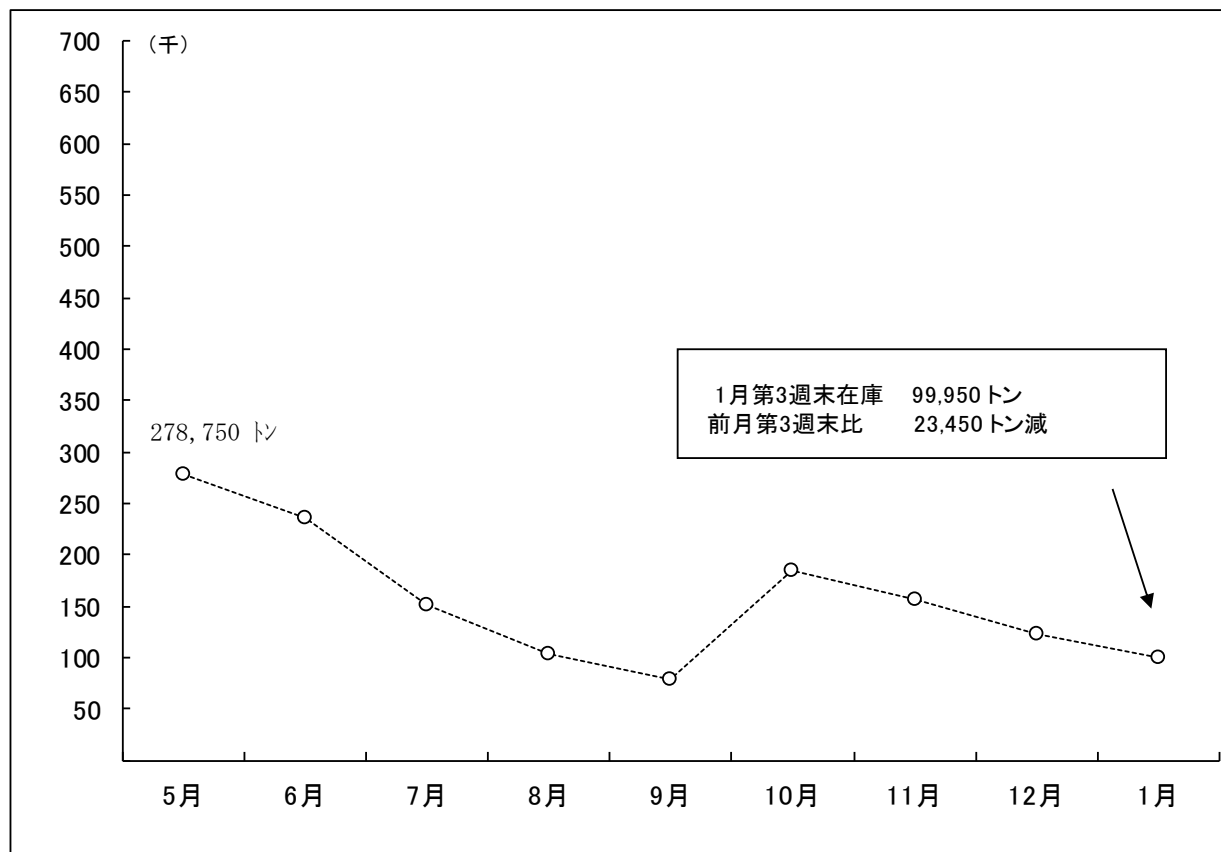
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2020年9月	2020年10月	増減	2019年10月	増減
横浜	165,400	148,600	-16,800	161,000	-12,400
名古屋	126,100	110,500	-15,600	141,700	-31,200
大阪	20,000	20,000	±0	15,500	+4,500
合計	311,500	279,100	-32,400	318,200	-39,100

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・21年1月15日現在 78,058 S T 前月比 328 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・20年11月末 99,745 トン 前月比 2,396 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・20年11月確報 60,801 トン
・20年12月速報 58,420 トン 前月比 95.8 %

◎ 電線出荷実績

・20年12月速報 53,700 トン 前月比 95.7 %

◎ 軽圧品生産実績

・20年 12月	板 類	84,840 トン	
	押 出 類	59,564 トン	
		<hr/>	
		144,404 トン	前月比 95.0 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。